

季節を感じる

～日中活動の充実に向けて～

デイセンター 楓 生活支援員 丹波友樹

●はじめに

- ・全国的な新型コロナウイルス感染拡大
 - 社会的な生活様式の変化
 - 福祉施設でも日中生活のあり方を再検討する必要性が出てくる
- ・活動における感染リスクの懸念
 - リスクを抑え日中生活を送る
 - その中でも大切にしてくことを明確に持つ

どのようにして意義のある生活を送っていけるか？季節感を得ることは「人間らしい生活に重要ではないか」と考える。しかし…

- ・外出が出来ない（難しくなる）

→ 季節をダイレクトに感じる事が難しくなる



その他の活動でも制限があり、楽しみを得る方法の減少
季節感を得る機会が減ることによるメリハリの低下



制限されている中でも季節感と楽しみを感じられるよう
活動内容の検討が必要

●検討内容

外出先で体感し習得してきた…

★社会性・協調性・QOLの質の維持



【楓での活動で習得できないか？】

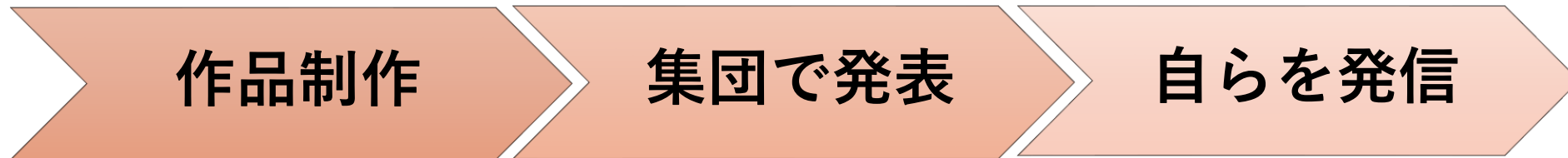
- ①年間のイベントを行うときに、軸とテーマを決め活動計画に反映させる
- ②日々の活動の狙いと目的を決める

四季を感じられるイベントを取り入れ定期的に実施し、習得に繋げる

●そもそも日中活動とは？

【アート・紙すき】

- ★集団の中で個々に作品を制作し、思いや主張を形にして他者へ伝える
- ★自分を知って貰う場を提供することで自ら発信出来るようにする



繰り返し行う中で自ら発信したりと、表情や動作に変化が見られる

個別支援としては…

細かな動作(書く・ちぎる)を取り入れることで**運動機能**や**感覚機能**へ働きかけ、
会話を交えることで**言語聴覚機能**(言語中枢)への働きかけを行う

【音楽・本読み】

- ★共通の目的をもつことで、社会性とコミュニケーション力を高める
- ★共同して活動し、集団でのリズムや同期を目的とする



音楽や本読みは始まりと終わりの見通しが立てやすい

内容とリズムの共有を行い、集団で一斉に同じゴールに向かうことで引き込みを発生させることで、集団と社会性に繋げる

- ・繰り返し行う事で、周囲の様子に合わせて参加や準備が出来る
- ・楽器を使用することでの表情の変化が見られる
- ・午後も覚醒が落ちることなく参加出来る

● 楓のイベント風景

・七夕準備

本読み



音楽



アート



七夕会 (演劇)



・ お化け屋敷準備

音楽

本読み



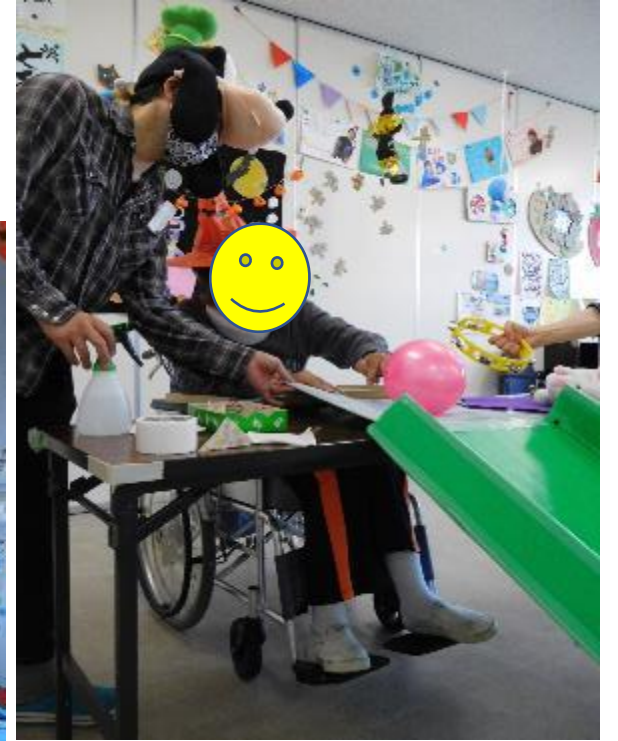
アート



・納涼祭（お化け屋敷）



ハロウィン（仮装・ボーリングゲーム）



●結果

- 活動を通して、イベントを作り上げていく過程もご家族と共有した。
イベント後にご家族より連絡ノートにて以下のような報告があった。
 - ・それぞれのコミュニケーション方法で出来事を伝えていた
 - ・テンション高く帰宅し、余韻を楽しむ様子が見られた
 - ・作成した作品や飾りを持ち帰り、楽しみを家族と共有出来た



【活動やイベントで得たことや楽しみを通所している時間だけでなく、自宅に帰ってからも感じられていた】

●考察

★良かった点

- ・日々の活動時に担当以外の職員も意識をもって活動出来た
- ・アート関連はテーマが示された事で関連した活動をする流れが出来た
- ・利用者が主となるゲームは事前に練習する事により（利用者、職員共）当日迷う事なくプレイ出来、当日の行事進行が滞ることがなかった

★難しかった点

- ・イベントに向けて活動を進めていく中で、コロナ禍での感染対策をふまえた活動設定の難しさ
- ・職員のスキル（演奏やアート）や準備時間の不足
- ・利用者によっては、事前に練習を繰り返す中で本番と練習の区別がつきにくく、少し戸惑う様子も見られた

●最後に

以上より、改めて日中活動を充実させるためには、季節感を取り入れていくことが重要であると感じた。

また利用者が活動やイベントで取り組んだこと、感じたことを通所の中だけで完結させるのではなく、自宅に帰ってからご家族に伝えたり、そのことで一緒に笑ったりすることで、日々の生活が豊かになっていくのだと考える。

今後も様々な制限がかかる状況は続くかもしれないが、季節感のある日常を送れるように支援していきたいと思う。

ご清聴ありがとうございます。